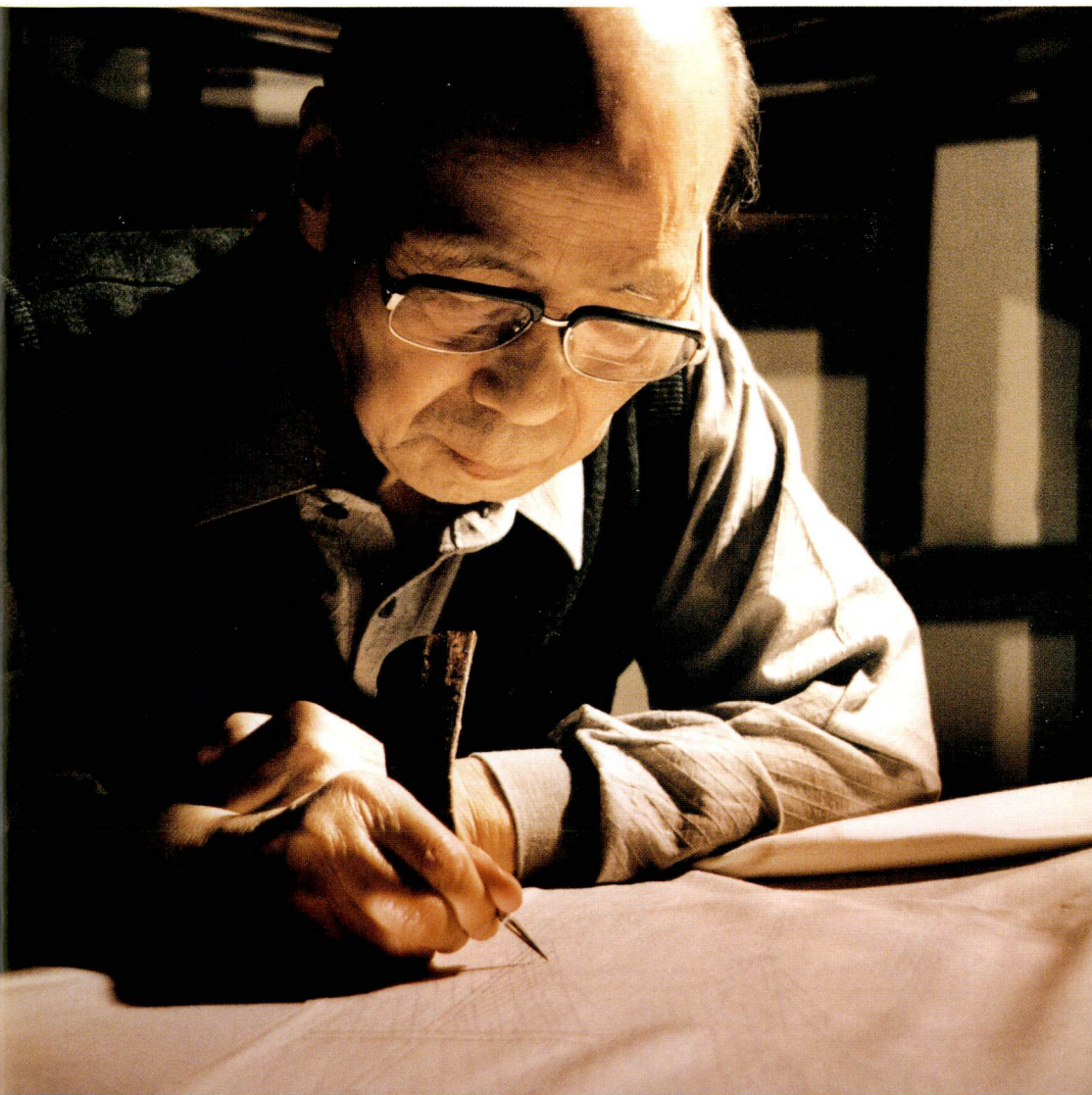


伝統工芸の名匠

山田 貢の友禪

なぎ

—— 凧 ——



「山田 貢の友禅」に寄せて

北村哲郎
(工芸評論家)

今は数少なくなった自らの手で、使いやすい材料や道具を整える物作りの基本を、この映画は見せてくれます。

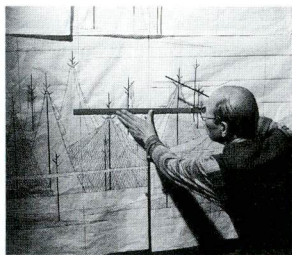
また糸目糊は単に防染のためだけでなく、日本画の表現にとって最も重要な要素となっている線描と、同じ意味をもっていることを再認識させてくれます。

単純作業にみえる糊置きをする山田さんの表情は、その仕事のきびしさを何よりもよく物語っています。

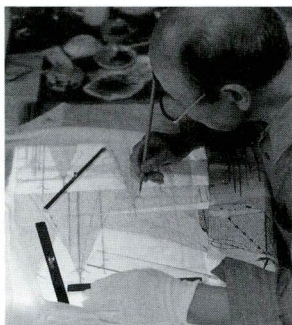
染色の仕事としてだけでなく、物作りのきびしさをぜひ知って頂きたいと思います。そして、手仕事の尊さも合わせてご認識頂ければ、黙々と手仕事にたずさわっておられる方々とともに、大変うれしく存じます。



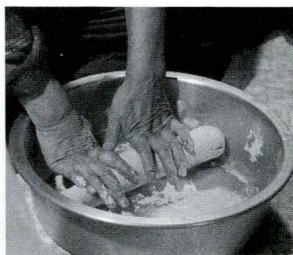
人間国宝・山田 貢さんは(東京世田谷在住)明治45年岐阜市に生れる。中村勝馬に師事、友禅の技法を習得。以後友禅の研究と制作を極める。作風はスケッチなどからイメージした松文、麦穂文、網干文、波文、巴文を題材に伝統的な糯糊による糸目、せき出し、叩きの各糊を巧みに用いて表現する。特に力強い線の構成による大胆にして簡明な意匠は、清新な色調により現代感覚の中に優雅な味わいを漂わせている。



原寸下絵を描く山田先生



青花による液で下絵付けをする

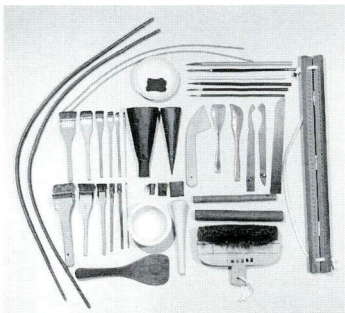


糸目糊づくり

『文明の崩壊した後の風』

松川八洲雄
(映画監督)

東京世田谷区の大原交差点といったら、騒音と空気の汚染の一番酷い所として有名でした。多分今でもそうですね。その交差点に面した自動車修理工場の裏に、友禅の人間国宝である山田さんは半世紀以上住んでいる……というところから僕らはこの記録を始めました。その、第二次大戦の終戦後に建てられたままの家の、ベニア張りの大きな机の前が山田さんの座るところで、ですから照明はそこを照らすだけでよく、カメラもまたその指先のサインペンや青花の汁の筆先を撮るしかなかったのです。

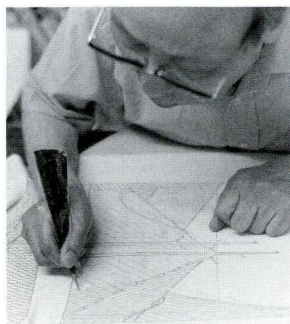


友禅染色用具

そうして息詰まる撮影の最後に交差点の脇のビルの屋上に上がりました。排気ガスの海から首を出す西に富士山が見え(るはずでした)、東に新宿の副都心の超高層ビル群が聳えて望めます。そして1909年に「走る自動車は(ルーブル美術館にある有名な)ギリシャのニケの彫像より美しい……」と、「騒音とスピードを愛する」未来派の詩人マリエッティの宣言したように、下からは騒音と、スピードが出せないためにイライラした警笛が湧き上がっていました。突然、僕もまた一面家々のひしめく中に聳える副都心の超高層ビル群が「ニケの彫像より美しく」思えたのです。

そこでハッと気がきました。その光景は山田さんが、つい今しがた水洗いしたばかりの網干し風景、名付けて『風』と何と似ていたことでしょう。それはまた否応なく、崩壊したヨーロッパを描いたシュールレアリスト、マックス・エルンストの絵を思いださせたのです。こうして意識しようとしてまいと、山田さんは正しく現代の作家に他なりません。

この映画はその山田さんへのオマージュでもあります。



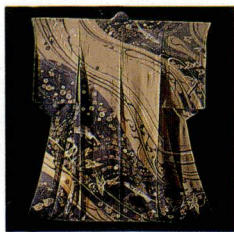
糸目糊置き作業



彩色をする



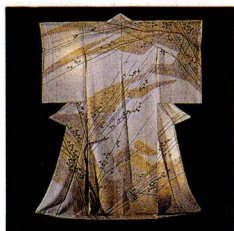
水洗により、鮮やかな模様が現れる



一越縮緬訪問着「ながれ」(S.32年作)



友禅着物「松竹梅」(S.34年作)



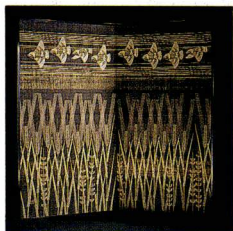
友禅着物「爽」(S.45年作)



友禅着物「麦」(S.46年作)



友禅着物「波文」(S.62年作)



麻友禅透箔屏風「若麦文」(H.3年作)



点連線糸目友禅着物「凧」(H.7年作)

作品名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉

山田 貢の友禅 — 凧 —
(35mm/カラー/34分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団

製作：(株)英 映画社

監修：北村 哲郎

製作スタッフ

製作・宮下 英一

脚本演出・松川八洲雄

撮影・小林 治

照明・前田基男

音響録音・加藤一郎

ナレーター・寺尾 聡

演出助手・日向寺太郎

嘉本 哲也

撮影助手・多田 勉

百瀬 修司

ネガ整理・福井千賀子

現像・IMAGICA

タイトル・菁円社

協力

岐阜市

名和昆虫博物館

松坂屋

三越資料館

表紙撮影・桑野 恒郎

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

財団法人ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-24-10 テラサキ第3ビル2階
TEL. 03-5795-1279 FAX. 03-3280-2830